広域事例の疫学調査から仮説生成までのプロセス

症例へ聞取り調査
標準調査票の利用

- 購入食品・外食・動物・環境曝露
- 発症前の行動歴
- 自治体をまたいで同じ項目の把握

曝露情報整理
症例の回答を集計

- 共通する食品・場所・行動を抽出
- 時期、自治体、サブクラスター別に確認
- メニューを食材単位に分解

比較・補強情報

A.日常の購入食品調査
一般集団の摂取頻度比較
「よく食べる食品」を見極める基準

B.レストラン・会食情報
メニュー共通料理、共通食材
食事機会・提供日の確認

C.スーパー購入情報
レシート、会員番号、購入履歴
商品名・ブランド・購入日確認

D.複合要素の整理
外食＋購入＋家庭内調理を統合
料理→食材→供給元へさかのぼり

仮説生成

- 疑わしい食品・食材を候補化
- 共通店舗・ブランド・供給元を整理
- 優先順位をつけて絞り込む
- 追加質問票で中心となる曝露源設定

次の実施事項

- 絞り込みを行った調査票による調査
- 解析疫学
- さかのぼり調査
- 立入調査

聞き取り調査
- 比較をするための基盤
- 背景摂取頻度との比較に役立つ
- 聞き取り担当者のスキルが重要

補強情報
- 追加情報収集の調査実施

仮説生成
- 原因の可能性を絞り込む作業

調査・解析事項
- 仮説の検討のための調査・解析
- さかのぼり調査・立入調査

参照：CIFOR. GUIDELINES FOR FOODBORNE DISEASE OUTBREAK RESPONSE